1974　昭和４９年７月発行　　鶴研
雑誌　月刊自由民主　７月号　１１頁
自由民主党
見出し［日本人乃心］　座談会［原田憲、足立利昭］　P1

座談会

日本人乃心

戦後三十年、この大事な忘れもの……

出席者　原田　憲（郵政大臣）
　　鶴田浩二（映画俳優）
司会　　足立利昭（政治評論家）

終戦から、この八月で足かけ三十年。日本は、あの戦後の荒廃から、たくましく立ちあがり、経済も文化も、国際競争力も、あのころと比較すると想像もできないような変化を遂げた。私たちは平和なこの国で、自由に生き、自由に主張し、自由な生活を営み、暮らしは戦前とは比べものにならないほど向上した。これは国民の英知と、勤勉さのもたらしたものであることは当然ながら、政府・自民党の正しい政策や、科学技術の進歩も相まって、国全体で築きあげた大きな財産といえよう。

そして三十年たった今、日本も、日本人もようやく一つの区切りを迎えた。敗戦から立ちあがるために国をあげて経済活動に取り組み、いつのまにかエコノミック・アニマルと言われるほどの高度成長国家となったが、この過程で、われわれは何か大事なものを置き忘れてきたとはいえないだろうか。その大事なもの、それは「日本人の心」である。戦後の一つの区切りに、われわれは失われようとする伝統の良さ〝大和心〟というものをいまいちど考えてみたい。

教育勅語が売れている

足立利昭（司会）　戦後三十年間は、無から有を生むために、国も国民もがむしゃらに働いて、どうにか〝物〟の面での充足はできたようですが、〝心〟の問題がなおざりにされてきたのではないか――という反省をあちこちで聞きます。きょうは「日本人の心」について、改めて考えてみたいと思うのです。結論などあまり考えずに、自由に話し合っていただきたいと思うわけです。

最近、テレビで見たんですが、教育勅語が奈良の橿原神宮で非常に売れているというんですね。買っていくのは中年以上の層が多いそうですが、これは教育勅語が見直されてきたというか、何かそういう社会的状況、あるいは要求があるのかどうか。教育勅語というと、すぐ軍国主義復活というように結びつける風潮もあるんですが……。

原田憲（郵政大臣）　私は政府の一員だから堅苦しくいうと、教育勅語は、法律的には敗戦後、消えたものですよ。これは明治二十三年に、天皇の名において、その当時の日本の教育をこうしようじゃないかということで発布されたものだ。戦争に負けたからといって、何でもかんでも日本の古くからの伝統を悪くいうことはないと思うんです

がね。

いまになって橿原神宮がなぜ売り出したかは、よくわからないが「日本とは何だろう」ということを考える人がふえてきたことの現われじゃなかろうか。たまたま橿原神宮の話が出たんで……ここは神武天皇を祭ってある。外国の人たちの中には神武天皇を武力の権化みたいに言う人もいるけど、神武天皇は刃に血塗らずして平和のうちに日本を統一しようとした天皇で、変な話をするようですが、長髄彦（ながすねひこ）と戦ったとき、金鵄が飛んできて弓にとまり、それがパッと光って相手が降参したんだな。弓は鳥を撃つもので鳥類にとっちゃ絶対に近づかないものですよ。その弓に鳥がとまったということはどういうことですか。日本の神話だが、ともかく神武天皇は降参した長髄彦を殺してないんだ。

そういうことから始まって、日本の大和心というものは非常に包容力のある、おだやかなものですよ。そういうものを、何もかもみんな悪いことにして捨て去って、そして日本は軍国主義だとか自ら言っている。教育勅語でも、一部で「悪い」というと、逆にほんとはどうなんだろうと、もう一度見てみるという心理もありますよ。

そこに書かれていることを読めば、たとえば徳目一つずつあげてもどこが悪いのか。父母に孝に、兄弟仲良くとか、博愛衆に及ぼしと書いてあるじゃないの。私は何も、教育勅語を政府がもういっぺん基本理念として教えろなんてことは言いません。しかし、いいものは残し、悪いものは捨てたらいい。伝統の中によいものを残していくことこそ人間じゃないか。人間と動物の違いはそれだと思うな。

足立　私ら小学生のときに教育勅語をみんな暗記させられましたね。修身の時間に徳育について教えられました。少なくともこれは戦前、戦中の日本人にとっては〝心の柱〟だったことは間違いないです。

鶴田浩二（映画俳優）　いろいろあるでしょうが、（教育勅語に）無条件に反発しているのはどういう理由ですか。復活とか、復活じゃないとかいうことじゃなく、教育勅語とは一体何だと。歯牙にもかけない人間がいるわけでしょう。それと、教育勅語はほんとうに天皇が書かれたものですか。ここにいちばん問題があるんじゃないですか。今ではその真相はわかりませんね。僕も残念ながら知らないです。しかし僕より若い人はなお知らないでしょう。

そうしますと、日本はＵＳＡの占領を経て大きく変貌しましたね。国家と国体が変貌した間に、たとえば教育勅語を、現在この時点に伝えるためには、その起源をきっちり説明しなきゃならないでしょう。そうでないと納得しませんよ。今はそういう時代だと思うんですよ。僕たちの年代は別ですよ。それでもわからないことが、いっぱいあるんですから、わかれというほうがムリでしょう。

しかし、いま先輩（鶴田氏は原田氏の大学の後輩）がいわれたように、教育勅語には悪いことは書かれてないことは事実なんですよ。ただし日本の国語を八五パーセントぐらいまで勉強しないと理解しにくい文体ですね。

原田　文章がね。今の人ならよけいわからない。

「婦系図」をフケイズと読む学生

鶴田　「婦系図（おんなけいず）」をフケイズと読んだり、「金色夜叉（こんじきやしゃ）」をキンイロヨルマタと読む世の中ですからね。それも文科志望の学生がですよ。とても僕たちの学生時代には考えられなかったことですね。そういうことも踏ンまえて、もういっぺん世の中を見つめ直さなきゃいけないんじゃないですか。そんな気がするんですよ。ですから僕らには全く抵抗がありません。

原田　いまの鶴田君の言葉は本質をついている。われわれには抵抗がなくても、今の人たちには、なぜこれができたのか、ということから説明しないと理解しにくいぞっていうのは、鶴田君にしては……僕は、無条件に「いい」って言うかと思っていたんだが…。

鶴田　あ、そうスか。

原田　なぜ、これが出てきたか、ということは大事だと思うな。教育勅語がなぜ明治二十三年に出たかということから説かないと。

鶴田　私らには抵抗ないんですよ。なぜなら教育課程が違うから。今は教育体系、全く違うじゃないですか。

礼儀作法を形式ときめつける若者

足立　戦後のアメリカの占領政策で、修身や歴史など、日本人教育の重要な教科が、学校教育から除外され、伝統ある日本人の文化や魂を捨てて、物質万能、個人本位の弱体化政策が強要され、日本人はやむなくこれに従ったわけです。この結果、戦後教育は利己的、物質中心に実施されたといえるでしょう。そして人づくり教育としても大事な一面が失われているように思うんです。

原田　敗戦いらいの経過をみると、ある面で日本人のよき伝統や、正しい倫理観、道徳心が失われ、本当に意義ある社会生活や家庭での生活がかえりみられない日常になりつつあることは確かだ。もちろん、いつの時代にも、社会からはみ出すような者はあるが……。とくに戦後教育を受けたものの中には、社会秩序を認めず、礼儀作法を「形式」ときめつけ、無責任、無軌道を、若い者の特権のように考える風潮が一つの傾向としてあるね。

人倫の基本を説いた名文

足立　戦前、戦中は、教育勅語が、日本人の心のよりどころだったことは事実です。その功罪はおくとしても、戦後教育にはそういうものがない。別の見方ですが、教育勅語は人倫の基本を短い文章の中に、これほど見事に表現したものは世界でも珍しいということで、外国では名文の代表にあげているところもあります。発展途上国では、教育政策の中にとりあげている国もあると聞きますね。しかし日本の今の教育の中には、もう教育勅語はない……。

鶴田　むしろ〝教育〟ということが……。今の教育はアメリカ――これはコスモポリタンな国です。租国を持たない国だと僕は思うてます。〝祖国〟という言葉があてはまら

ない国です。その占領軍が押しつけた教育に、よき伝統と文化の継承を求めるのはムリです。われわれには〝祖〟があります。だから僕はアメリカ人を見おろしてるんですよ。これは僕の思想、思索なんです。

僕はナショナリスト…鶴田

原田　日本は〝戦闘〟には負けたが……降参はしたけど、日本の国は未来永劫なんだと――。

鶴田　私もその一人です。

原田　最近、よく教育勅語論議がされるが、鶴田君の考え方は、戦前、あまりこだわらないで教育を受けた人たちはそういう考えの人が多いと思う。

鶴田　一つ歴然たる事実があります。天皇が人間を宣言された時点で、僕は効力が失われたと思うんですよ。だから天皇が人間宣言をされず、いまでも上御一人であれば、今日ただいま、僕はツー・ヤングに押しつけます。（命令口調で）〝黙れ！　黙って従え〟といいます。ところがもうダメです。それならどうすればいいんですか。それから僕のジレンマが始まりましたよ。先輩はよくご存じ。僕はたぐいなきナショナリストです。これまでも先輩に刃向かいながら「こんなことでいいんですか」と言ってきたんです。

原田　だから僕は鶴田君に「あんまり思いつめるな」と言うんだ。彼はいま、戦没者の遺骨収集のために生命を賭けているんだ。チャリティ・ショーもやってね。それで「日本政府は何してるんだ！」と僕に噛みついてきた。

鶴田　ほかに噛みつける人、知らないんです。

原田　それで僕は山口敏夫君（当時の厚生政務次官）に「これは厚生省の仕事じゃないか。いっぺん鶴田と会って、協力してやれ」と言ったんだ。

硫黄鳥に観音像をまつりながら涙が……

足立　鶴田さん、遺骨収集に、ご自身で行かれたんでしょう。いつごろですか。

鶴田　一昨年、硫黄島へ行きました。硫黄島へ行った理由はちゃんとあります。一昨年厚生省が、硫黄島に関しては遺骨収集の予算を打ち切ったからです。打ち切るには理由が必要でしょう。たとえば収集を完了したとかこれ以上収集不可能だとか。そして「もうどうでもいいや」とか、この三つしか理由はないんですよ。そのうちのどれだろうか、と僕は海上自衛隊のフライトに同乗させてもらって行きました。鈴木一成という僕のブレーンと一緒に、その理由を探究に行ってきました。

　そのとき僕の友人の江口という焼き物屋の男、海軍飛行科予備学生十四期生ですが……彼が観音像を十五体つくってくれました。これを持って行ったんです。観音像をまつりながら……たまらなかったですよ。（悲壮な声で）こんなとこでネ。こんな地の底へもぐって……それも召集兵がですよ。（深くため息をついて）その骨一片すら、もう国家予算は出せんのだというのは、日本人というのはなんという残酷なんだと思いましたよ。これはひどいですよ。そこに骨がある限り、持って帰らなくちゃ

「お前たち、国のためだ、行ってこい」と言った人たちはどのように責任をとるんですか。

先輩、僕はお尋ねしたいですよ。そのときイニシアチブをとった人が、現在いらっしゃいますよ。やってくださいよォ。それをやって、初めて俺は日本人だと言えるんじゃないんでしょうか。僕はこんなことを言ってますが、学生軍人の最下級だったんです。僕より下はおらんぐらい。牛、豚みたいにやられた男なんです。僕は終戦のとき、軍刀を前に置きまして……この雇い兵がですよ。死すべきか、生きるべきか、迷いました。そのとき少尉候補生でした。ポツダム少尉です。ともかく戦争を指導した人たちが、なぜきっちりと責任をとらんのか、僕にはわからんわけですよ。

原田　それをいうから、あまり思いつめるな、と言ったんだけどね。それで硫黄島へ行かしたところ、遺骨が出てきたんだよ。

鶴田　いっぱいですよ。

原田　それで厚生省へ「打ち切ったのか」と聞いたら、橋本竜太郎君（元厚生政務次官）が「打ち切ってません」というから「打ち切ってないのなら、はっきりせい」と言うてやった。そして山口に会ってこいといったわけだ。

鶴田　あのときに山口さんと一緒に援護局長にもお会いしました。

原田　（鶴田君は）純粋なんだよ。

鶴田　（胸をかきむしって）こんな、なんですよ。

映画俳優だからチャリティーで

足立　そのために何度もチャリティーをおやりになったんでしょう。ことしも仙台でやられるとか。

鶴田　だって僕は映画俳優じゃないですか。僕にできることはそれしかないんです。だから先輩に助けてくれと、お願いしてるわけですよ。厚生大臣に「やってやれよ」と一言いってほしいんです。

足立　靖国神社法案を早く成立させよ、という学者、文化人の署名者に鶴田さんはなっていますね。大臣も昨年は自民党の国対委員長として……。

鶴田　いや、私は署名者じゃなく〝賛同者〟です。いわゆる国家護持委員会ができましたね。そのときの賛同者です。いちばん最初だと思います。

原田　僕は自民党案をつくるときから一生懸命になってきた一人だから、これが憲法違反だとは思ってない。違憲にならないような法律をつくっているつもりです。

鶴田　現行憲法にですか。これは英文和訳だから僕は認めてません。

靖国法案はぜひ…

原田　僕らは今の憲法がある限り、これに違反してはいけないということから、こしらえた法案を提出し、十分審議して、いいか悪いか決着をつけるのが議会だから、僕はその責任者（当時国対委員長）として、これは廃案にはできないという態度を貫いた。それが今度の国会で凍結が解除されて、衆議院は通ったが、参院で時間切れとなり、

結局、廃案で改めて出発するわけだが、僕が考えているのは英霊を粗末にしてはならないということです。

鶴田　そのとおりです。英霊のほうが、いちばん先だと思うんです。まず考えてくださいよ。誰が靖国神社にはいってるんですか。事業に失敗して自殺した男や、心中の片割れがはいってるわけじゃないんですよ。国のために……一命を捧げた人が、そしてほとんどが、強制的に捧げさせられたんです。

しかし一つ問題があるんですよ。靖国神社にはいる英霊、軍服を着てた人に限るんだなあ。そうじゃないと思う。ラモー攻防隊だって、慰安婦が二十人いた。日本人十八名、朝鮮人二名。この人たちは兵隊と一緒に白兵戦をしたわけよ。寡兵で。四十倍の敵を前にして…。四倍じゃないよ。四十倍の敵に対して三ヵ月、その砦は陥ちなかった。インパール作戦の影の部隊ですよ。ムダと知りつつ戦った部隊ですよ。その中にいた二十人の慰安婦が、最後は軍服を着て、手榴弾を将校に手渡している。そして一緒に死んでるの。なんでこの人たちが靖国神社にはいれないの。（叫ぶように）僕はそういう日本に腹が立つんです。

花輪のたえない無名戦士の墓

足立　世界のどの国をみても、国事に殉じた人は国の手で慰霊されていますね、

鶴田　僕の嫌いなＵＳＡだって、無名戦士の墓は……終日、花輪が絶えることはないですよね。

足立　外国の元首や国賓など、その国に行ったら必ず訪問する場所にはいってますよ。日本の首相も、そこへ花輪を捧げるんです。

鶴田　靖国神社に月に一回、天皇陛下にお参りしていただければ、靖国法案もへったくれも即座に解決します。断言してもいいですよ。人間を宣言されたんですから。そうしてもらいたいですよ。

原田　国家の行事とか何とかいうて、陛下がお参りになるんじゃなくて、ただ陛下がお参りになればいい、といいたいんだろう。

鶴田　（大きくうなづいて）そうです。

真の自由は節度、礼節があってこそ、ルール無視は人間じゃない

足立　「自由」の問題に移りたいと思いますが、自民党が「自由社会を守ろう」といいますと、共産党も「三つの自由」を保障するといってますね。共産党の場合は、自分たちの陣営のいうことは何でも善であってその他の――とくに反共の人たちのいうことは悪だという〝批判拒否政党〟的なところがありますね。これはこの前の選挙でも、各党と渡り合った過程でも感ずるところです。

で、真の自由とはいったい何であろうか。結局、社会的責任と義務をもったものじゃないでしょうか。そこに節度とか、礼節とかいうものがあってこそ、ほんとうに自由が生きてくると思うんですがね。

鶴田　よくわかりますよ。日ごろ僕たち、ものすごく悩んでいたことですから。でも節度

とか、礼儀ということになりますと、どこからきたかということになるわけですね。要するに礼儀、信義、そういう日本人のモラルというのは、四書五経、あるいは儒教っていうやつですね。これを今の若者は問題にしているわけでしょう。そんなものは問題じゃないと。日本人のモラル、それはわれわれがつくらなきゃならんといっとるんでしょう。僕は節度とか礼儀とかじゃなく、どんなくだらん人間でも、この社会に生きていくためには守らなきゃならないセオリーがあると思いますよ。

原田　ルールがあるんだ。

鶴田　それを無視したら、もう人間じゃなくなっちゃいます。

原田　考えるということをほんとうに持っているのは人間だからね。さっき共産党と自由の問題が出たが、同じ人間として生まれてきて、イデオロギーや考えが違うだけで、自分たち以外の自由は違うんだと、そんなバカなことがありますか。そこが今、問題点になってるわけで、言論の自由といいながら、サンケイの広告の件でも、なぜ自民党を訴えずにサンケイ新聞を訴えるかといったら、これでもし共産党の主張が通ったら、マスコミへの手段が、完全に彼らのものになるということなんだな。

〝自由〟と〝奔放〟をはきちがえたゲバ学生の〝甘え〟

鶴田　私は自由っていうのをこう考えてます。自由とは、ほんとは不自由と思っていますよ。自由っていうのは奔放とは違うんだと。〝自由奔放〟という言葉があるけど、自由と奔放は、全く本質が違う。奔放ならネ、全く楽なんだ。思いどおりにすればいいんだから。しかし、ほんとの自由ってのは、規則、規定、規制、これをキチーッと各自が守り合わない限り成り立たない。

原田　アウトロー（無法者）の世界を演じて右に出るものはないといわれる鶴田浩二にしてこの言ありだ。無法者ってのは自由にみえて、実はそうじゃないんだな。

鶴田　そのとおりです、自由とはそれほど貴重なもんですよ。

原田　それを知ってるから、君がやると……高倉健もそうかしらんが、やっぱり人の心を打つ役になるんだね。自由というものが不自由だってのはね。

鶴田　全くこれほど不自由なものはない。自分の女房すら、自由のためには犠牲にしなきゃならんということなの。それがアウトローの世界よ。僕は一介の映画俳優ですが、何かやらなきゃならない。人間として何かしなきゃ死んだやつに申し訳ない。仲間は三途の川で僕を待ってるんです。「おい小野、待ってたぞ」と、仲間がいっぱいいる前で、下を向かなきゃならないような人生はいやだ。（涙をためて）いやだ。

足立　日本はこの三十年間、一度も戦争に巻き込まれていません。ところが世界では局地戦争が六十回もあった。日本が近代国家になってから、三十年も戦争がないってのは今だけですよ。ところが平和の中にバカな戦争ゴッコがあるんですね。東大の安田講堂とか、浅間山荘だとか、ゲバ学生のセクトの戦いとか。これなんて世の中を甘くみてる。つまり革命かぶれの若いやつら、どんなことをしようと……警官に石を投げようと、火炎ビン投げようと、彼らが警官や国家によって殺されることはないという

〝甘え〟だと思うんです。

鶴田　自由と奔放の取り違えだと思いますよ。彼らはそれが自由だと思ってるところに間違いがある。ただし、彼らの気持ということになると、頭からわからんとはいわないです。

原田　甘えっていうことは、ルールを守らなくても、なんら制裁を加えられない――という認識でやってるんじゃないかという設問と思うが……。

鶴田　（さえぎって）しかし射的屋の人形を撃つようなことだけは、男としてしてもらいたくない。岡本公三です。ただし、そういうように誰がしたのォ。若者だけが罪を負って、それを指導したやつがのうのうとしているのが許せない。岡本に会えたら言ってやりたい。君は間違ってると。やるなら愛国者の立場で、日本のためにやりなさいと。僕はまぎれもなく愛国者だ。

悲しい若者の無気力、無目的

足立　〝三無圭義〟という言葉が一方であります。無気力、無感動、無関心。最近の若い人はとくに感動がない。目的をもって邁進していくという気力に乏しい人が目立っています。マイホーム主義というんですかね。

原田　いろんな階層の人を一つのカテゴリーにあてはめて決めつけることはできない。今の若い人は総体的に無気力だといわれるけど、そうでないやつもたくさんいるんだよ。何でも一つの型にはめて片づけようとするのは、日本人の悪いクセだ。

鶴田　全く同感です。

原田　無気力なやつもいるが、そうでないやつもいるってことだな。

鶴田　何に対して無気力なんですか。

足立　生きていくうえで、自分は何を目標に、どうしていくかと。それは職場とか……「休まず、遅れず、働かず……」そういうのが非常にふえているというんですね。

鶴田　それは先輩、今だけじゃないですね。昔もありましたね。サラリーマンってのは。

原田　サラリーマン以上に、役人っていうのはそうだよ。

鶴田　先輩、そんなこと言っていいんですか。（笑い）

原田　話題がそういうことなんだよ。誰が何年に入って、なんぼ月給もらってるってのがいちばんの話題で……民間はそうじゃない。

鶴田　僕は、無気力とは違うと思うんです。いまの人、方向が定まらないんです。僕たちのときは方向が定められたんだから。一つしかなかったんだから。目的がないというのは悲しいですね。人間の苦しみを自分でみつけられないというのはダメですね。

原田　その点は心配するね。これがやがて俺たちのあとを継いでくるやつだが、大丈夫だろうかと。僕らは戦争に負けて三十年。こうして日本を今日までにしてきたが、これから先は大丈夫かなと一抹の不安を持つのはそれだな。だから、中国へ行ったり、アフリカへ行ったりしてその国をみると、貧乏な面はあっても、何か懐しいものがあるなあって感じる。それは一つの目的を持って躍動している懐しさなんだ。だから僕ら国家命令で、こうだ、ということじゃなくて、自分で選択して自分の道を進んでいか

なきゃならんというんだから、より高度ですよ。それをようやってくれるかなあっていう……。

〝ふるさと〟はゼニ、カネじゃない

鶴田　日本人というのは何だろう――と僕はよく考えるんです。（重ねて、国による遺骨収集を切々と訴える。涙をぬぐいながら）日本という国には恨み、いろいろあります。

原田　恨みがあるって？　それがあっても懐しいのが日本の国ですよ。祖国だとか〝ふるさと〟というのは、銭やカネのものじゃない。それがいま忘れられようとしていないだろうか。

先月ヨーロッパに出張したとき、フランスのガーレーという大臣に会ったが、彼は日本へ来たことがないのに「日本の心を失ってくれるな」というんだね。一つの事例だが、生け花を高く評価していた。今フランスでは〝セミヨテ〟という言葉が盛んに人々の口にされている。それを辞書で引いてみたら「平穏」とか「穏やか」とかいうことだな。そしたら中山駐仏大使が「中国には〝平明の気〟という言葉がある」というんだ。これは僕が常にいう〝和風〟だね。穏やかな風であり〝大和風〟という言葉でもあるね。日本人が失ってもらいたくないというのは、この〝和風〟を失うなということですよ。

もう一つ中国の言葉に〝和して同ぜず〟というのがある。地球上にたくさんの人が住んでる。国は違うが、一つの和になってるわけだね。ところが一人一人は違うんだ。生け花でいうと剣山にたくさんの花が生けられ、一本一本は違うが、全体として一つの和となり美しさを発揮する。これが〝和して同ぜず〟だって僕は話したんだ。

今、国際社会の中で、日本というのは何ぞやというものがなければ、ほんとのバランスのとれた良さを発揮できない。

足立　〝ふるさと〟とは何でしょうね。最近、日本中で祭りが復活してきている。一時、祭りがすたれたのは、ふるさとの青少年がみんな村を捨てて都会に出てきたからですね。おかげで東京や大都市はパンク寸前になってます。平均的にみて日本人の生活はよくなり、〝衣食〟は足りましたが、とくに都会では〝住〟が不足してます。人口集中の問題は、これから一番大きな問題だと思います。そこでふるさとを大事にして、もう一度、ふるさを再建することが……。

鶴田　〝ふるさと〟をいちばん大事にしているのは中国ですよ。共産党の中国です。

今も変わらない〝日本の母〟

原田　祭りということば、やはりこれは〝ふるさと〟といちばん結びつくな。親や祖先、友だちというものをすぐ思い出す。

足立　郷愁ですね。母の印象ですぐ思い出すのはどういうことですか。

原田　一家を守るというか……夫を助け、子を育て……というと平凡だが、やはり〝愛〟という感じがすぐくるね。

足立　夜なべして、針仕事、一粒の米、一切れの野菜もムダにしなかった……。私の母の場合は同時に嫁と姑という関係を子供心に感じていました。いまの母親はどうでしょう。

原田　本質的な〝日本の母〟というものは変わらんだろうがね。しかし規格はずれは以前より多くなったんじゃないか。たとえばコインロッカーの子捨てや、並みはずれた教育ママなど。

鶴田　僕は小野田少尉のお母さんに〝日本の母〟の姿をみました。この世の中にもまだいたんだと。こんな立派な母親が……。あれを妙に理屈つけて〝軍国の母〟と片づけるようなことは許しません。武士道と対比される大和民族の、真の婦道だと思います。

足立　テレビで見ていた若い女性たち、これは戦後生まれの世代でしたが、やはりみんな感動してましたね。〝死んでこい〟といって息子を戦線に送った、当時の母親が果たして何人いたか知りませんが、少なくともそういう状況を全く知らない、いまの三十代以下の人たちにも、あれは大きな感動だったんですね。

原田　状況はつながってなくても、それが日本人の血だよ。

足立　鶴田さんのふるさとはどこですか。

鶴田　浜松です。ふるさと運動はいいですね。これは大事なことですよ。

原田　僕は大阪の池田。宝塚が近いんで、少年のころからの宝塚ぐるいだよ。いまだに〝ヅカキチ〟とマスコミに冷やかされる。

足立　私は九州の大分ですが、山紫水明の小さな町で、川遊びの印象がはなれません。
　最後に〝日本人の心〟を――いろんなとらえ方がありますが――一言で言うとしたらどういうことになりますか。

日本人の心は、祖国愛（鶴田）、和して同ぜず（原田）、大和魂（足立）

鶴田　（間髪を入れず）「祖国愛」だと思います。「愛国心」です。

原田　僕はね、しいていうなら、さっきから言ってるように「和」だ。それにつけ加えていうなら「和して同ぜず」個々の人間は一人ずつ違う。しかし、大きくみれば「和」だよ。それが太陽の……日本は〝太陽の国〟といわれる……

鶴田　（さえぎるように）わかった。先輩はそういう抽象的なことしかいわれない。

原田　「和」というのは、抽象じゃないよ。小さな社会から、大きな地球にまで……

鶴田　それが抽象なんですよ。

原田　そうじゃない。

鶴田　それじゃ「和」というのは、どういう「和」なのか、ということをおっしゃらない。日本人としての「和」ということですか。

原田　「和して同ぜず」だよ。

鶴田　それは日本人としての「和」ですね。

原田　そう。もちろん日本人として……人間としてだよ。

鶴田　それじゃ、原田先輩も愛国者の一人と受けとっていいわけですね。

原田　もちろんそうだよ。

足立　みんな、祖国を愛するということでは異論ありませんよ。家庭愛、同胞愛、……愛国心、これは異論のないことです。イデオロギーとは全く別の問題でしょう。

原田　「愛」は「和」だよ。

鶴田　それなら文句ありません。私は、何をしようと、常にその前提に〝愛国者〟って言葉が、その観念が、〝愛国者〟っていう感覚が、そしてその感情がない限り、どんな立派なことを言う人でも日本人とは認めません。何をしようとですよ。それが共産党であろうと、僕は認めます。しかし残念ながら、あれは愛国者じゃないです。

足田　私の日本人の心は「大和魂」です。

鶴田　それこそ、祖国愛と同じですよ、表現が違うだけで……。

足立　それではこのへんで。